

令和7年度 第3回彦根市上下水道事業審議会 議事録 (R7. 12. 25)

1. 日時 令和7年12月25日(木) 14時～16時
2. 場所 彦根市役所本庁舎 5-1、5-2 会議室
3. 出席者(順不同、敬称略)

<委員> 7名

可児島 達夫

長崎 敏雄

中村 傳一郎

廣瀬 浩志

丸尾 雅啓

横山 幸司

渡邊 美幸

<事務局> 12名

上下水道部：木村部長、福井次長、荒北副参事

上下水道総務課：野村課長、野口課長補佐、松原係長、若林主任、北川

上下水道業務課：前川副主幹

上水道工務課：杉本課長補佐、北川副主幹、池田副主幹

<オブザーバー> 2名

佐々木 貴史(株式会社東京設計事務所)

畑 香織(株式会社東京設計事務所)

【開会】

事務局

ただ今から、令和7年度第3回彦根市上下水道事業審議会を開催いたします。
本日の司会を務めさせていただきます上下水道総務課の若林でございます。よろしく
お願いいたします。

委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、ご出席賜り誠にありがとうございます。
す。

事務局

それでは審議に入らせていただきます。

彦根市上下水道事業審議会条例第6条第4項の規定により、会議の成立要件といたしまし
て、委員の過半数の出席が必要となっておりますが、本日は8名中7名の方がご出
席でございますので、ここに会議が成立しましたことをご報告いたします。

【議事】(1)

事務局

それでは、ただ今から会議次第に従いまして進めていただきたいと思います。審議
会条例第6条第3項の規定により、会議の議長は会長があたることとなっておりますの
で、横山会長よろしくお願いいたします。

会長 それでは、ただ今から議事に入らせていただきます。

本日の議事は「彦根市水道事業第4期中期経営計画（経営戦略）および彦根市水道事業ビジョンの策定にかかる現状、課題等の整理」になります。

それでは、事務局から説明をお願いします。

事務局 「彦根市水道事業第4期中期経営計画（経営戦略）および彦根市水道事業ビジョンの策定にかかる現状、課題等の整理」を事務局より説明。

会長 議事に関して、事務局から説明がありました。それではご意見やご質問がありましたらお願いいたします。

委員 資料1の11ページにつきまして、カビ臭の濃度が上昇傾向にあるため粉末活性炭を購入されていますが、カビ臭物質濃度は平成と比べて上昇しているということでしょうか。処理方式の見直しについて具体的に教えてください。

事務局 令和7年は特にカビ臭物質濃度が高くなっており、原因は異常気象によるものだと考えられます。そのため粉末活性炭を大量に投入する必要がありました。平成はカビ臭物質濃度が高くなかったため、粉末活性炭の使用量は少なく済んでいました。

次に、処理方法の見直しに関して、粉末活性炭と琵琶湖の原水の接触時間をより長くするよう検討しています。現在の接触時間はおよそ5分になるので、目安として最も効果のある30分を目標にします。粉末活性炭以外の処理方法を探すと非常に費用がかかりますので、現在の施設の中で何かできないか考えています。

委員 まず、資料1の27ページ、浄水施設や管路の耐震化についてです。能登半島地震で、液状化のため管の継手がずれ、断水が発生した事例がありました。耐震化はそれらの問題も含めて、対策を進められているのでしょうか。

次に、資料1の24ページの業務委託や人員体制の強化が必要ということについて、現在料金支払い等は委託されていると思いますが、それ以外にも業務委託を進める部分があるとしたら、どのようなところがあるか教えてください。

事務局 耐震化につきまして、管が地震動レベル2に対してどれほど耐えられるか耐震化率を算出しています。地震動レベル2とは震度6等の大地震レベルのことで、今のところ更新する管路はすべて耐震化しています。

事務局 現在、料金の徴収や検針・大藪浄水場等浄水関係施設の運転管理を業務委託しています。今後の課題としまして、広域化と包括民間委託の2つが挙げられます。広域化というのは、彦根市の水道事業を彦根市だけが運営するのではなく、複数の市町で一括運営し人員不足など問題を解消するということです。次に包括民間委託ですが、水道事業を長期間運営していくために、民間企業にある程度利益が出る形で業務を委託するということです。

委員 7ページの水利権につきまして、平成29年度の見直しで、現在計画1日最大給水量が57,400 m³ということですが、今後もこの数値のままでしょうか。計画1日最大給水量は68,800 m³から57,400 m³に制限されているのでしょうか。

次に、20ページのグラフですが、文章とグラフの年度・西暦の表記が一致していません

るので対応するように修正をお願いします。

事務局

平成 29 年の見直しの際に人口予測などの関係で、57,400 m³に減らされている状況です。現在、水利権の更新や東沼波町の井戸の事業変更認可の申請を行っています。

事務局

計画 1 日最大給水量につきまして、平成 29 年の見直しで減らされたのは琵琶湖の取水量のみです。人口減少や節水意識により一人当たりの使用水量が減少していますので、それに伴うものです。

事務局

グラフの表記ですが、ご指摘のとおりわかりづらい部分がありますので改善させていただきます。あくまで今回の説明資料に参考として加えているものになりますので、こちらのグラフを公開するかにつきまして今後検討していきたいと考えています。

委員

10 ページの井戸の計画的更新につきまして、深井戸の水量の減少などによる理由で更新されるということでしょうか。

16 ページのバックアップ機能ですが、大藪系を除いた範囲は地下水で給水ができるという理解でいいでしょうか。具体的に教えてください。

26 ページの業務指標の中で、管路更新率ですが、令和 7～8 年度の目標値が非常に低く設定されているのはなぜでしょうか。

事務局

井戸の計画的更新ですが、井戸が昭和 40 年代に作られていますので、経年劣化のため更新を考えています。

彦根市は大きく分けて大藪系・東沼波系・稲枝系とブロック分けされていますが完全に分かれている訳ではありません。大藪系の水が使用できない時は、稲枝系の地下水を多く使い、ブロック化されている弁を少し緩めるなど対策をしていきたいと考えています。

事務局

令和 7 年度から口径の大きい送水管の更新を行っているのですが、単価が高く費用はかかりますが管の延長は伸びないというのが現状のため、目標値がグラフのとおりとなっています。

委員

最近の傾向としてカビ臭や PFOS の濃度が高いなど市民の方から苦情などありましたか。

事務局

一部の人から苦情がありました。カビ臭物質濃度は数値の基準を満たしていますが、敏感な人は少ない数値でも気づく方がいらっしゃいます。

委員

感想ですが、今後の大きな課題として老朽管の投資財源をどうするか、そして井戸の更新があると思います。そのために、早い段階で料金改定についても検討される必要があると思います。広域化がなかなか進展しないという点や、ほかの自治体で井戸の試掘に多額の費用がかかっている様子を見ると大変な話だと感じました。

委員

他市町と比較して彦根市の給水原価がどういう状態であるか、教えてください。

26 ページの法定耐用年数超過浄水施設のグラフですが、目標値と実績値が 0 になっているのはなぜでしょうか。

事務局

給水原価は近年の物価上昇や、委託関係の件費上昇、電気代の高騰により高くなっていますが、彦根市（滋賀県）は琵琶湖から取水しているということもあり原価自

体は他市町に比べて安く済んでいます。

事務局

目標値と実績値が0になっていることにつきまして、緩速ろ過の施設は2020年に法定耐用年数を超過しますので令和元年度までは0で問題ありません。

会長

それでは議長としての私の進行はここまでとして、あとは事務局に委ねたいと思います。

【閉会】

横山会長、ありがとうございました。

事務局

また、委員の皆さまにおかれましても、本日は長時間にわたり、慎重なご審議を賜りありがとうございました。

次回、第4回の審議会は3月25日を予定しておりますが、「彦根市水道事業の事業見直しおよび投資・財政計画」の内容について、ご審議いただく予定です。

以上をもちまして、本日の会議を終了いたします。お疲れ様でした。